



新年明けましておめでとうございます。昨年は震災を含め大変な年でした。今年がどうなるか、難しいところですね。北方謙三の水滸伝を読んでいます。中国の宋の時代に、汚職官吏や不正がはびこる中で、英雄たちが国を憂えて梁山泊に籠り反乱を起こす壮大な物語です。我が国と世界の状況を見て憂える人は少なくないと思います。どうしたら良いのか、英雄ならぬ私も苦しんでいます。

年末に低血糖症の回復の為のケアハウスの建設を試みましたが、資金と経費から難しいと判断しました。放射能除染の空気清浄機も作れず、汚染灰のガラス固化も進まず、惨敗の一年でした。多くの人が苦しんでいるのに、傍観してやるだけで自分の失敗や損失を恐れて何もしようとしないう指導者たち、大言壮語するだけの無策な人々、そして自分もまたその中に沈んでしまう無力さと怖さを覚えます。助けを求め人ばかりで、応援してくれる人が少ない社会で何ができるのか。梁山泊の勇士の葛藤苦闘がそのまま私の心に沁み入り、申し訳なさに涙がこぼれます。

「機能性低血糖症に係る国の取組みを求める意見書」が全国75の地方議会で採択され、千葉市でも12月15日に決議されたことは励みとなりました。妻の病状の回復が進まず、経済的に困窮していた昔のことを思い出せば、ここまで来たことに感謝するばかりです。子供達も支えてくれるようになりまし。

自閉症の子供が数名、殆ど完全に治りました。今年はその治療の枠組みを他の研究所などと進め、多くの医師に紹介する準備を進めています。長い道程でしたが、少しずつ進んでいます。放射能対策も精神疾患の治療も続けていくしかありません。梁山泊は玉砕するのですが、楊令という若者を中心に改革の闘いが進められる物語もあります。私は、まだ玉砕はしたくないので、力を蓄えていくつもりです。「桃栗3年、柿8年、久雄の大馬鹿18年」と忍耐を唱えていた頃も過ぎ、結婚31年となります。自分たちのことは解決してきたのですが、働きが大きくなるに連れて、課題も多くなりま

す。今年も宜しくお願ひします。
柏崎久雄

* **感染症の疑いのある方は廊下の入口から**

インフルエンザ、風邪、おたふくかぜ、はしか等が疑われる方は、中央通路わきにあるインターホンでご連絡ください。院内感染を避けるためご協力ください。待合室も病態別に隔離して診察します。

* **インフルエンザのワクチン追加購入しました。**

チメロサル無しのワクチンを用意しております。予約なしで、朝9時までと午後の診療時間帯のみ受付です。詳しくはお問合せ下さい。

* **13日(金)院長が4ヶ月健診で外出の為、午後の**

診療は3時からとなります。

* **麻疹・風疹の予防接種が来年の3月までは高校2年**

生も対象になりました。日本脳炎の予防接種が、4歳〜16歳(接種を受ける機会を逸した者)までとなりまし。子宮頸がんワクチンの公費接種は、来年度も継続されることになりました。対象は中学1年生〜高校1年生です。その他の予防接種も含め詳細は受付に御相談下さい。

* **「聖書を読む会」 1月17日(火)2時〜2時20分**

「回復の会」 17日11時から催されます。

* **「神のデザインによる医療」販売中 1260円(税込)**

食品に含まれる放射能値の測定を、当院患者さんとヨーゼフ会員に限定して有料で1月10日より行います。詳細は1月に入ってからお知らせします。

* **低血糖症治療の会 全体研修会 2月23日(木)**

詳細は、今月中に会員に発送します。入会・参加申込みも受付中です。

〈有害ミネラルの体内蓄積〉

1. ヒ素について

2011年4月のニュースでは、東日本大震災による土砂崩れと津波によって、気仙沼市の金鉱山の廃坑から有害ミネラルのヒ素が流れ出したそうです。健康基準の24倍のヒ素が場所によっては見つかったそうですが、「直接口に含まない限り健康被害はない。」と報告されたそうです。

薬害による自然破壊とガンなどの人体への悪影響を最初に告発したレイチェル・カールソンの「沈黙の春」(1962年)にも、ヒ素が最初に発見された発がん物質であると警告していますが、驚くことに当院で毛髪検査をした多くの方にヒ素が高濃度でした。ヒ素は加齢と共に増えることが検査でわかっているの、日常生活によってヒ素が体内に蓄積されてくると思われます。

ヒ素の害は、体内でタンパク質と結び付きやすいために、タンパク質である酵素を阻害したりタンパク質を合成するプロセスを阻害するからであるとされています。

ヒ素化合物は、皮膚から容易に吸収され、局所に壊死を作ります。殺虫剤や除草剤に含まれているので、食物による経口摂取の方が多く、海藻などにも多く含まれていて日本人はヒ素量が多いそうです。無味無臭無色な毒であるために暗殺の材料として知られており、ナポレオンもヒ素で暗殺されたという説もあり、和歌山ヒ素入りカレー事件は1998年のことです。

殆どのヒ素化合物は、人体に非常に有害であり、飲み込んだ際の急性症状は、消化管の刺激によって、吐き気、嘔吐、下痢、激しい腹痛などがみられ、場合によってショック状態から死に至ります。慢性症状は、剥離性の皮膚炎や過度の色素沈着、骨髄障害、末梢性神経炎、黄疸、腎不全などです。発ガン性も高いので注意が必要です。

2. 水銀について

毛髪検査で水銀とヒ素が高濃度で検出されるのは、毛髪のタンパク質ケラチンと強く結合するからで、毛髪は有害ミネラルの排出器官でもあります。水銀もまた加齢と共に増える傾向があり、食物などの影響によると思われます。

生物濃縮ということは覚えておいてください。プランクトンや海藻を食べた小魚を食べる大きな魚、例えばマグロやカツオは、有害ミネラルが蓄積され濃縮される傾向があります。魚介類を多く食べる日本ではメチル水銀の摂取量が諸外国に比較して高くなっており、地域の特徴は、マグロ類の消費傾向とよく一致し、関東地方などを中心とする東日本で高くなっています。毛髪検査をして水銀値が高い人の食生活を聞くと、マグロやカツオが大好きという人が多くいます。胎児の発育にも関係するので、妊娠する可能性のある女性は、大型の魚の摂取は控えたほうが良いかもしれません。毛髪検査で水銀が高濃度の方は、中枢神経系に問題がある場合が多いと報告されています。水俣病(熊本県八代海)や阿賀野川流域(新潟県)でおきた工場排水に起因する有機水銀中毒(第二水俣病)は有名です。

ワクチンの防腐剤としてチメロサル(エチル水銀チオサリチル酸ナトリウム)が日本では一般的に用いられていますが、アメリカでも日本でも、自閉症の原因として訴訟が起こり、日本では敗訴しております。マリヤ・クリニックでは、インフルエンザ・ワクチンにはチメロサル無しのもを用いています。

3. カドミウムについて

カドミウムは、めっきの材料として用いられ、顔料やニッカド(ニッケル・カドミウム)電池の電極などの工業製品にも利用されてきました。ホタテガイの内臓にはカドミウムやヒ素が蓄積濃縮するそうです。

カドミウムは、イタイイタイ病の原因として有名ですが、石油や石炭の燃焼に排出され、喫煙者を親に持つ幼児では、鉛・カドミウム・アルミニウムの毛髪検出量が高いことは間違いのないものとして報告されています。土壌が酸性であるとカドミウムが溶け出しやすくなり、植物に吸収

されるようです。したがって、農作物にはカドミウムの含有基準があるそうですが、多く食べれば体内に吸収されることは間違いないでしょう。

カドミウムに汚染された粉塵を吸い込むと短期間で気道や腎臓に問題を生じ、腎不全により死の危険を招くこともあります。大量のカドミウムを摂取すると急性中毒を引き起こし肝臓や腎臓を損傷しますし、カドミウム化合物には発癌性もあります。また骨軟化症、骨粗鬆症などが生じ骨がもろくなります。腎臓の近位尿細管不全では、腎臓が血中から酸を除去する機能を失います。近位尿細管不全は低リン酸血症、筋力低下、ときに昏睡を起こし、また高尿酸血症により関節に尿酸結晶が蓄積し痛風を生じ、嗅覚を失う患者もいるようです。内分泌攪乱作用もあるようで、精神疾患や自閉症の方には高い値が出ています。

科学的には亜鉛と非常によく似ており、身体に必須な亜鉛が少ないとカドミウムを取り込んでしまうことが考えられます。体外への排出は難しく、長期間残留すると言われます。

4. 鉛について

鉛は昔からいろいろな用途に使われ、鉛蓄電池、合金、鉛ガラス、防音シート、銃弾、電子材料、釣りの重り、はんだ、水道管、顔料などに大量に利用されてきました。

古代ローマは、陶磁器の上薬、料理道具、配管、食器などに使われたので、死産・奇形・脳障害が多かったようです。昔は、ワインを甘くする目的で鉛の酸化物が添加されたり、鉛ガラスをこする楽器で神経障害を起こしたということも言われています。水道管に用いられたり、有鉛ガソリンが利用されたり、身近なところで多く用いられてきたので、未だに多くの鉛が毛髪から検出されています。

腹痛・嘔吐・伸筋麻痺・感覚異常症など様々な中毒症状を起こすほか、血液に作用すると溶血性貧血・ヘム合成系障害・免疫系の抑制・腎臓への影響なども引き起こすようです。鉛もまた、排出には時間がかかり、骨にも取り込まれてしまうようです。

5. 放射性物質について

私達が心配するのは、内部被曝です。上記の有害ミネラルも身体を蝕み、多くの障害や病気を起こしてきましたが、その因果をつかみ、責任を誰かに問うということはできません。朝日新聞で連載されている「プロメテウスの罠」では、政府と東電と担当機関が作為的に情報を誤魔化してきたことが報道されています。しかし、公的機関や与党の議員は、「食品は良く管理されて販売されているから安全です。」と言い、汚染地域の食品を警戒すると非国民扱いされます。

なぜ、すぐに配ったヨウ化カリウムを飲ませなかったのか。子供たちに甲状腺がんが出てからでは遅いのです。男たちは闘う体質を持っているので、安全や子育てに無関心のようにですが、母親たちは子供を守るためにひたむきです。病気というものは、なってからでは治療は難しく、予防医学が最も好ましいのですが、放射能の危険性を認めると、その因果を認めたことになり、賠償責任が起こるから予防もできないのです。だから、「安全です。」と言うのです。

放射性物質は、それぞれに決まった臓器に集中して蓄積する性質があります。

- ストロンチウム90。骨に沈着し、造血機能を破壊して白血病を引き起こす。
- セシウム137。骨、肝臓、腎臓、肺、筋肉に多く沈着する。
- ヨウ素131。甲状腺に集まり、甲状腺機能障害や甲状腺がんを引き起こす。ヨウ素は、植物体内に200~1000万倍に濃縮される。ミルクにも62万倍濃縮される。
- トリチウム。臓器に沈着する。
- コバルト。全身に沈着する。

政府は、被害を与えるのは体外からの放射線だけで、体内に入った放射性物質からの放射線は微量であり、身体に影響をもたらすことはない、と主張しています。例えば、アルファ線が直接に外部被ばくを起こすことは、飛距離が短いのでないと思えますが、この粒子が空中に浮遊し、飛散して身体の内部に入ると、半減期が非常に長いために、生物濃縮によって、人体に与える影

響は極めて高くなります。

体外被ばくであれば、身体を貫通し遺伝子を損傷しても、修復能力によって身体は対応します。しかし、内部被ばくであれば、遺伝子は損傷を受け続けることになって修復機能が間に合いません。特に、細胞分裂の早い胎児や骨髄などは影響を強く受けることになります。細胞は、場所によって分裂の速度が異なり、生殖腺や造血組織、胎児や乳幼児は細胞分裂の速度が速いのです。これらは非常に速い速度で細胞分裂を繰り返し、損傷した遺伝子の修復が追いつかないまま細胞が分裂され、突然変異が大きなものとなり、ガン化や障害児が起こることとなります。

政府が発表した放射能摂取基準は、放射性セシウムで飲料水・牛乳・乳製品が200Bq/kgで、野菜・穀類・肉・魚などが500Bq/kgです。これに対してドイツ政府が示した許容量は、大人8Bq/kgと子供4Bq/kgで、大変な差があります。飲食物は、長期間に亘って身体に影響を与える内部被曝の原因となりますから、基準が厳しいのが当たり前です。つまり、日本の食品は、この危険な基準以下なら、名目上「安全」であり、食べて身体を壊したら、放射能以外の原因とされるのです。国民を守るよりも、政府の財政を守る方が大事なのでしょうか。

チェルノブイリでも人々の免疫力が落ちたことが報告されています。体調を壊し、風邪や咳が治らない、病気が重くなる、などということは既に多くの人々に起こっているはずで、これからは、ガンが増えていくことでしょう。

6. 私達の身体を守る。

私達は、有害ミネラルを亜鉛・カリウム・カルシウム・マグネシウム・ヘム鉄などで代替的に置換できることを確認してきました。また、放射線の害は酸化ですから、抗酸化作用のあるグルタチオン・ビタミンC・αリポ酸・ビタミンE・カロテノイドなどが非常に有効であることも確認できます。さらに、DNA修復のためにナイアシンやタンパク質が必要であり、細胞膜を強化することと細胞分化のためにビタミンAが有効であることは言うまでもありません。

a. グルタチオン

グルタチオンは強力な抗酸化物質であると共に、肝臓に多く存在して毒物・薬物・有害金属を体外に排出するために用いられ、放射性物質の排出やガン患者にも有効です。これらの排出には多くのグルタチオンが急激に消費されるので、継続的に十分なグルタチオンの補給が必要です。ニンニク・玉ねぎ・キャベツ・赤唐辛子・ブロッコリー・米や小麦の胚芽・ホウレンソウに多く含まれていますが、消化管から吸収されにくいようです。私どもは、グルタチオンの含まれるサプリメントをお勧めしています。

b. 亜鉛

亜鉛を投与されていたマウスは被ばくに対して抵抗力が強いことがわかっていますが、亜鉛は放射性物質の吸収を妨げ、排出にも効果があります。亜鉛は細胞分裂にも必要であり、抗酸化酵素にも必要で、成長に欠かせないミネラルですから、子供だけでなく大人にも十分な亜鉛の摂取が放射線対策と健康維持に欠かせません。亜鉛が不足すると傷の修復が遅くなり、皮膚病や前立腺障害にもなっていきます。

＜ 診 療 時 間 ＞

月曜～金曜（午前8時30分～12時10分、午後2時30分～5時30分）

土曜（午前8時30分～12時10分、午後2時～4時）

休診日 木曜、日曜、祝日、年末年始

- ・各種健康保険取扱機関
- ・介護保険取扱機関
- ・結核予防法指定機関
- ・身体障害者認定医
- ・各種健康診断
- ・生活保護指定機関
- ・特定疾患取扱機関
- ・自立支援医療機関
- ・小中台小学校校医
- ・栄養療法(分子整合医学)



(携帯サイトへ)